

A19

力覚センサを有する歯列モデルを用いた口腔ケア手技の評価(1)－基礎データの収集と解析－

山下 敬 (やました さとし) (滋賀医科大学医学部看護学科)

[共同演者] 中西京子 (滋賀医科大学医学部看護学科) / 本田可奈子 (滋賀医科大学医学部看護学科)
柏木直亮 (立命館大学理工学部) / 王王忠奎 (立命館大学理工学部)
平井慎一 (立命館大学理工学部) / 森川茂廣 (滋賀医科大学 神経難病研究センター)

【目的】 教育的背景の異なる学生による口腔ケアの手技の力学的基礎データを収集し解析する。

【方法】 歯ブラシ及び各歯根部に歪みセンサを設置した口腔ケアシミュレータを用い、歯科衛生士課程3年生女子10名、看護大学3、4年生女子10名、医系以外の大学3、4年生男・女10名ずつ、計40名を対象に力学データを収集した。各センサの最大力、力の積算・平均、検出ピーク数、ピークの力総和・平均を分析し、4群間の一元配置分散分析と多重比較を行った。

【結果】 6項目の力学指標には統計的有意差は認められなかったが、歯科衛生士課程の学生では、他群に比べて、比較的短時間に規則的にブラッシングを行い、奥歯も前歯も均等に磨く傾向がみられ、被検者間のばらつきも小さかった。

【結論】 口腔ケアの力学データの解析の結果、統計的有意差は認められないものの、歯科衛生士課程の学生に対する教育の効果が窺われた。

A20